

未成年『模擬』参議院議員選挙2010 実施報告(確定版)

2010・8・13



模擬選挙推進ネットワーク

<http://www.mogisenkyo.com>

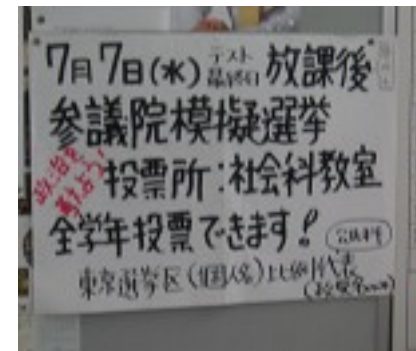
目次

- ・実施概要 3P
- ・学校リスト 4P
- ・集計概要 5P
- ・投票結果 6P

- ・未来の有権者の投票理由、感想(抜粋) 7P
- ・模擬選挙に取り組まれた先生方からの感想 9P

- ・今回の特徴 11P
- ・総括、今後の課題 12P

- ・模擬選挙の流れ 13P
- ・民主主義の危機 14P
- ・模擬選挙の意義・目的 17P
- ・中立を守るために 20P
- ・模擬選挙応援団 21P
- ・模擬選挙推進ネットワークとは 24P



実施概要

実施時期(投票受付期間)

- ・ 2010年6月25日(金)午前8時30分から
7月11日(日)午後8時まで

対象

- ・ 2010年7月11日現在19歳以下の方

投票方法

- ・ 学校：全国から22校が参加
 - ※8月5日正午時点(未報告の学校が5校程度あります)
 - 内訳＝小学校：1校 中学校：6校
高等学校：13校 大学：1校 ほか：1校
 - ※中高一貫校など「中等部・高等部」がある学校は、中等部、高等部別に計算
- 過去の国政選挙の実施学校数
 - 総選挙(2003年)実施校＝7校
 - 参院選(2004年)実施校＝21校
 - 総選挙(2005年)実施校＝42校
 - 参院選(2007年)実施校＝40校
 - 総選挙(2009年)実施校＝20校
- ・ 街頭、Webでの投票
 - 街頭：渋谷(東京都)、大宮(埼玉県)など
 - Web：Webで全国から投票を受付



△選挙管理委員会から借用した記載台



△「めいすいくん」も中学校に出張!

模擬選挙に取り組んだ学校

《学校名の公表が可能な学校》

*千葉県

芝浦工大柏中学校
芝浦工大柏高等学校

*東京都

駒場東邦中学校
駒場東邦高等学校
玉川学園中等部
玉川学園高等部
郁文館夢学園中学校
郁文館夢学園高等学校
都立戸山高等学校

*長野県

長野県立赤穂高等学校
長野県立田川高等学校

*三重県

日生学園第一高等学校(英語)
三重県立桑名西高等学校 政治経済

*愛知県

愛知県立豊橋工業高等学校

*京都府

立命館宇治中学校
立命館宇治高等学校



集計概要

比例区の投票総数 6052票

- 総選挙(2003年)＝約2100票
- 参院選(2004年)＝約4800票
- 総選挙(2005年)＝約6800票
- 参院選(2007年)＝約8200票
- 総選挙(2009年)＝約4600票

比例区の有効投票数 5673票

(20歳以上の投票、白紙投票などを除外した票数)

有効投票における投票方法別の票数

- ・学校：5,553票
- ・地域／街頭：47票
- ・Web：73票

有効投票における、投票者の年齢・学年

- ・小学生：36名
- ・中学生：1325名
- ・高校生：2777名
- ・最年少：3歳(1人)

有効投票における、投票者の主な居住地(都道府県)

- ・北海道から沖縄県までの29都道府県から投票
- ・東京都(3492名)、千葉県(893名)、長野県(323名)、三重県(314名)、京都府(307名)、愛知県(231名)、北海道(185名)、兵庫県(158名)

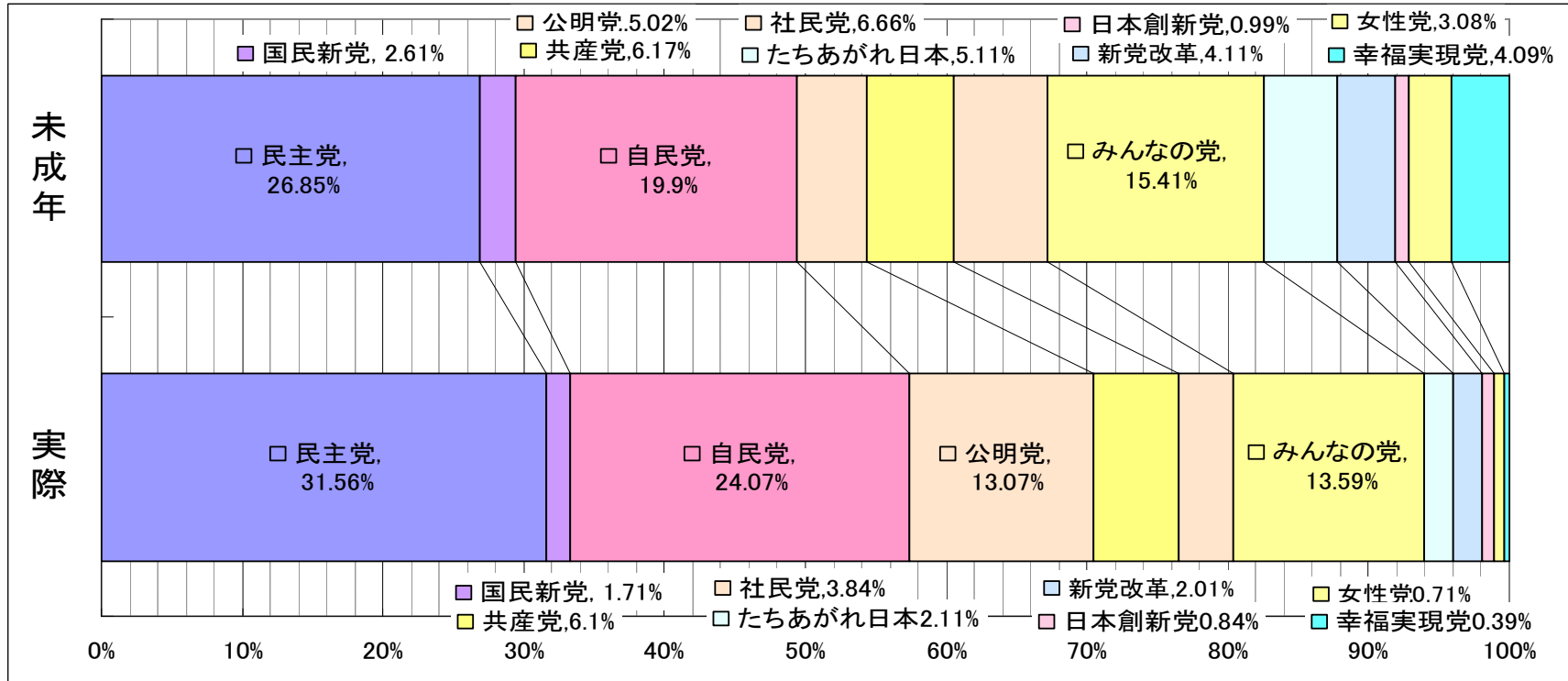
集計方法

比例区の投票を、全て政党名に置き換えて集計



投票結果

民主26.9%(実際は31.6%/以下同)、自民19.0%(24.1%)、みんな15.4%(13.6%) など



未成年「模擬」参議院議員選挙2010

		民主党	国民新党	自民党	公明党	共産党	社民党	みんなの党	たちあがれ日本	新党改革	日本創新党	女性党	幸福実現党	有効票小計
未成年	獲得票数	1,523	148	1,129	285	350	378	874	290	233	56	175	232	5,673
	割合	26.85%	2.61%	19.90%	5.02%	6.17%	6.66%	15.41%	5.11%	4.11%	0.99%	3.08%	4.09%	100.00%
	議席数	14	1	10	2	3	3	8	2	2	0	1	2	48
実際	獲得票数	18,450,140	1,000,036	14,071,671	7,639,432	3,563,557	2,242,736	7,943,650	1,232,207	1,172,395	493,619	414,963	229,026	58,453,432
	割合	31.56%	1.71%	24.07%	13.07%	6.10%	3.84%	13.59%	2.11%	2.01%	0.84%	0.71%	0.39%	100.00%
	議席数	16	0	12	6	3	2	7	1	1	0	0	0	48

未来の有権者の投票理由、感想(抜粋)

誤字・脱字もそのまま掲載

- ・民主党のマニフェストがよかったから。増税。間違えずに使えば景気は良くなると思う(東京都・9歳・女)
- ・初めて模擬選挙をジュニアエラで知って、やってみたら面白かった(宮崎県・10歳・男)
- ・与党になったばかりの民主党にもう一度チャンスをあげたいからです(山形県・12歳・男)
- ・どの党も良いことしか言っていない気がして、判断しにくかった(兵庫県・小6)
- ・ちゃんとやってくれ！ 言ったことは守ってください。(千葉県・中1・男)
- ・保守的な政策や教育正常化への取り組みから(茨城県・15歳・男)
- ・普段は適当に聞き流しているテレビのニュースも少し興味を持って聞くようになった。(北海道・中学生・女)
- ・最後の投票だったけど、改めて選挙の大切さがわかった。どの党を選んだかによって、日本の未来が変わることをつくづくと感じた。(千葉県・高2・男)
- ・私が20歳以上になったら、この意見が実際に反映されて国の将来につながっていくのだということを強く考えさせられた。(埼玉県・17歳・女)
- ・消費税増税は賛成。国債を減らしていく努力が見えてこないのを見せてほしい(埼玉県・18歳・女)

未来の有権者の投票理由、感想(抜粋) 2

誤字・脱字もそのまま掲載

- ・民主党とみんなの党の政策には長所と短所がある。足して2で割るなどと単純にはいかないが、両者の長所を活かせる政治を望んでいる(静岡県・18歳・男)
- ・外国人参政権や消費税に注目して投票した(東京都・高3)
- ・自分の父はコンビニエンスストアを経営しているが、1年生の頃、レジを手伝うようになった。レジに立っているとき、疲れた表情で弁当や日用品を買っていく人(派遣労働者)のことを知った。弁当を買わずカップ酒だけを手に帰る人もいた。税率の引き上げとともに、食料品など生活必需品への税率を低くする複数税率導入も検討されているが、お店に来てくれる人のことを考えると、消費税増税に賛成する人には入れられなかった(長野県・19歳・男子)
- ・もしこれが本当の一票だったらと考えると、真剣にどの立候補者や政党が良いのか考えるようになり、今までと選挙に対する意識が変わりました。(東京都・19歳・女)
- ・ボードマッチを見て、割と求めているものがあったから。期待もこめて。(東京都・19歳・女)
- ・労働条件、賃金で、同じ仕事をしている人の待遇を均等にすることに賛成。企業の支援の内容も充実している。子ども手当の現物サービスへの代替にも賛成(新潟県・18歳)
- ・ふたたび、政権をとって欲しいというよりも、民主党の良いストッパー役になって欲しいという願いで(自民党を)選びました。(新潟県・19歳)
- ・子どもは確かに大人より幼いし、分かってないこともたくさんあるけど色々なことにたいする意見が無いわけじゃないから良いことだと思う(東京)

模擬選挙に取り組まれた先生方からの感想 1

生徒に模擬選挙に取り組ませたのは今回で3回目になりますが、模擬選挙に取り組むと選挙や政治に対する関心が高くなるのを感じます。社会科の授業前後で選挙・政治に関する話題を話す生徒が増え、とてもよいきっかけ作りになりました。また、模擬選挙という形で政治家に自分たちの考えを伝える機会があるということをお教えると生徒は驚いていましたが、自分の考えが伝えることができるということから興味を持って取り組んでいました。(北海道・中学校)

模擬選挙で多少のふざけがあるのはいたしかたないとしても(スウェーデンでも模擬選挙の方が明らかに極右政党の支持率が高い等の傾向が見られた)、例えばそのスウェーデンで極右政党を学校での公開討論会に呼ぶか呼ばないかを真剣に議論している生徒がいることを考えると、その落差や、その落差を放置している我々の無力さに頭を悩まされる。また、日本の投票用紙の「自書式」というやり方にも改めて疑問を感じた。今までは自書に苦労される人がいるという点や、まぎらわしい表記が結果的に100%は活かされないという点についてのみ問題に感じていたが、そもそも自書式であるから候補者以外の名前が書かれるという「無効票」が出てしまうのではないか。それも一つ意思表示と見することもできるが、一票を最大限生かしたいという発想からすれば、自書式はその対極にあるように思われてならない。(東京都・中高一貫校)

争点をどこにおくかで、投票行動が変わったのではないかと思うが、生徒にとって難しい選挙だったと思う。ただ参加することに意義があったと思う。事前指導をどこまで行うかが難しい(東京都・高校)

模擬選挙に取り組まれた先生方からの感想 2

他の行事の関係もあり、全体で模擬選挙に取り組むというよりは、興味を持ってくれた少数の子どもと取り組むという形になってしまったのがやや残念であった。「投票をしてみたいけれど、もっと時間をかけて学ばないと、どう判断して良いか分からない」という声が多く、事前の学習についてもっと時間をかけてやる必要性を感じました。しかし、ポータルマッチやマニフェストを読むことなどを通じ「政党(政治家)なんて、どこに投票しても変わらない」という意識に多少の変化はあった様子。次回以降の機会があれば、もっとじっくりと時間をかけ、政治への興味・関心を持つきっかけとしていきたい(東京都・フリースクール)

政治に対しては、税金の無駄使いするなという意見が中学生には残っているものの高校生ではかなり減りました。しっかりした実行力を求める意見が増えたのが鳩山政権の経験によるものと思います。こうした点で中学高校生が非常によく事態の動きを見ていることがわかります。(千葉県・中高一貫校)

今回の参議院議員選挙が6月24日公示、7月11日実施ということで、ちょうど1学期末考査前後に模擬選挙ができました。このことは今回とても良いタイミングでした。1学期の単元が「政治」分野としていたことから、「模擬選挙」を単発の学習やイベントに留まることがないようにしました。模擬選挙が政治学習の仕上げや成果として取り組めるように課題解決学習的に取り組んだため、たっぷりと事前学習に手間暇をかけ、模擬選挙後もふりかえりや開票・集計・計算なども取り組んでいます。(愛知県・高校)

今回の特徴

1：選挙管理委員会との連携

- ・これまでの模擬選挙に引き続き、各地の選挙管理委員会から、実際の選挙で使う投票箱や記載台の借用などを受けた
- ・選挙啓発キャラクター「めいすいくん」の着ぐるみも、学校まで出張してくれた

2：模擬選挙応援団の結成

- ・各界の第一人者に「模擬選挙応援団」への参加を呼びかけたところ、40名を超える方が快諾して下さった
- ・頂戴したメッセージを、日替わりでウェブサイトで公開した

3：主要政党のマニフェストおよびポスターの入手

- ・主要政党のマニフェストおよびポスター(比例区用)を入手し、希望のあった学校に対して届けた。

4：メディアからの注目

- ・これまで以上に、新聞社、テレビ局などからの取材があり、模擬選挙がメディアで取り上げられる機会が増えた

5：新たな取り組み

- ・神奈川県すべての県立高校において、「シティズンシップ教育」の一環として、模擬選挙の取り組みが始まった
- ※今回の集計結果には、神奈川県の公立学校の結果は含まれていない



総括、今後の課題

《総括》

1：投票内容に関して

- ・未成年者の判断能力の未熟さを懸念する声もあるが、実際の選挙結果と比較してもほぼ同様の結果が出ている。
- ・学校での模擬選挙の取り組みにおいては、各政党の政策の比較、マニフェストの読み比べ、ボートマッチなどを事前に行っているところが多い。街頭投票でも選挙公報などを見比べた上で投票しており、未来の有権者は政策を踏まえたくて投票している。
- ・普段は選挙や政治に関心のない未来の有権者も、模擬選挙を行うことを通じて、実際の選挙結果に興味・関心を抱くようになってきていることが、感想などから読み取れる。

2：実施について

- ・今回、初めて「模擬選挙応援団」を依頼したところ、40名を超える各界の第一人者が引き受けてくださった。
- ・事業収入の全く無い活動のため、多くの方からの支援が不可欠である
- ・神奈川県すべての公立高校で模擬選挙が取り組まれるなど、模擬選挙に対する理解や広がりを感じている

※今回の集計結果においては、神奈川県公立高校の投票結果は含まれていない

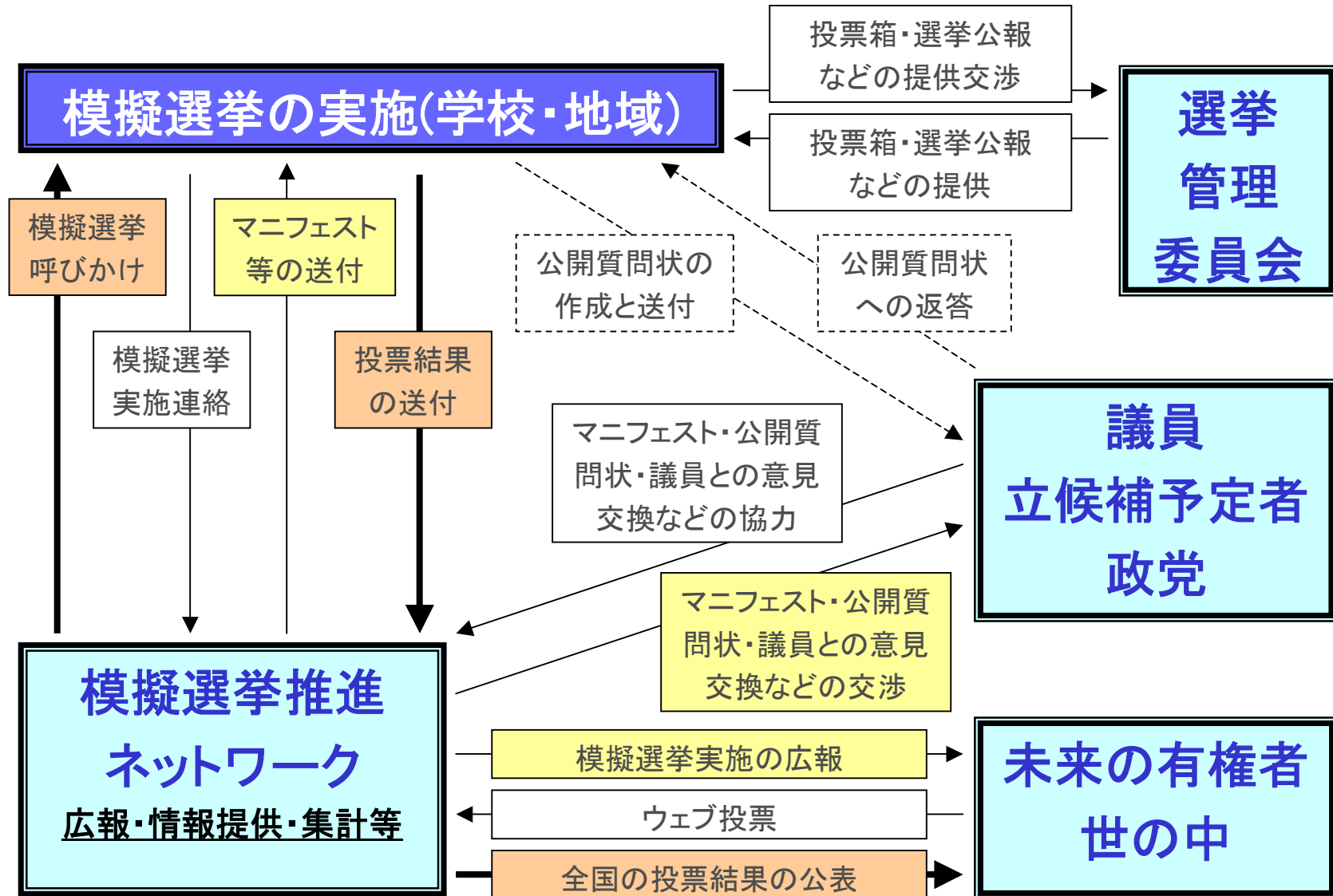
《課題》

- 1：学校で模擬選挙を実施するのが難しい日程でも、より多くの未成年者に体験してもらえる実施方法の模索。
- 2：模擬選挙の拡大に対応できるだけの人手や資金、事務所、ホームページ、Web投票システムなどを確保する必要があるが、活動に収入が伴わないために困難な状況が続いている。
- 3：実施が拡大する中で模擬選挙を盛り上げるための資料やグッズをきちんと確保していくために、各政党や選挙管理委員会との連携、協働のあり方の検討が求められている。
- 4：模擬選挙を実施していることを未成年者に知ってもらうための広報手段。マスメディア等の協力を得ていく必要がある。

選管や政党と協力する模擬選挙

未成年「模擬」参議院議員選挙2010

模擬選挙の流れ

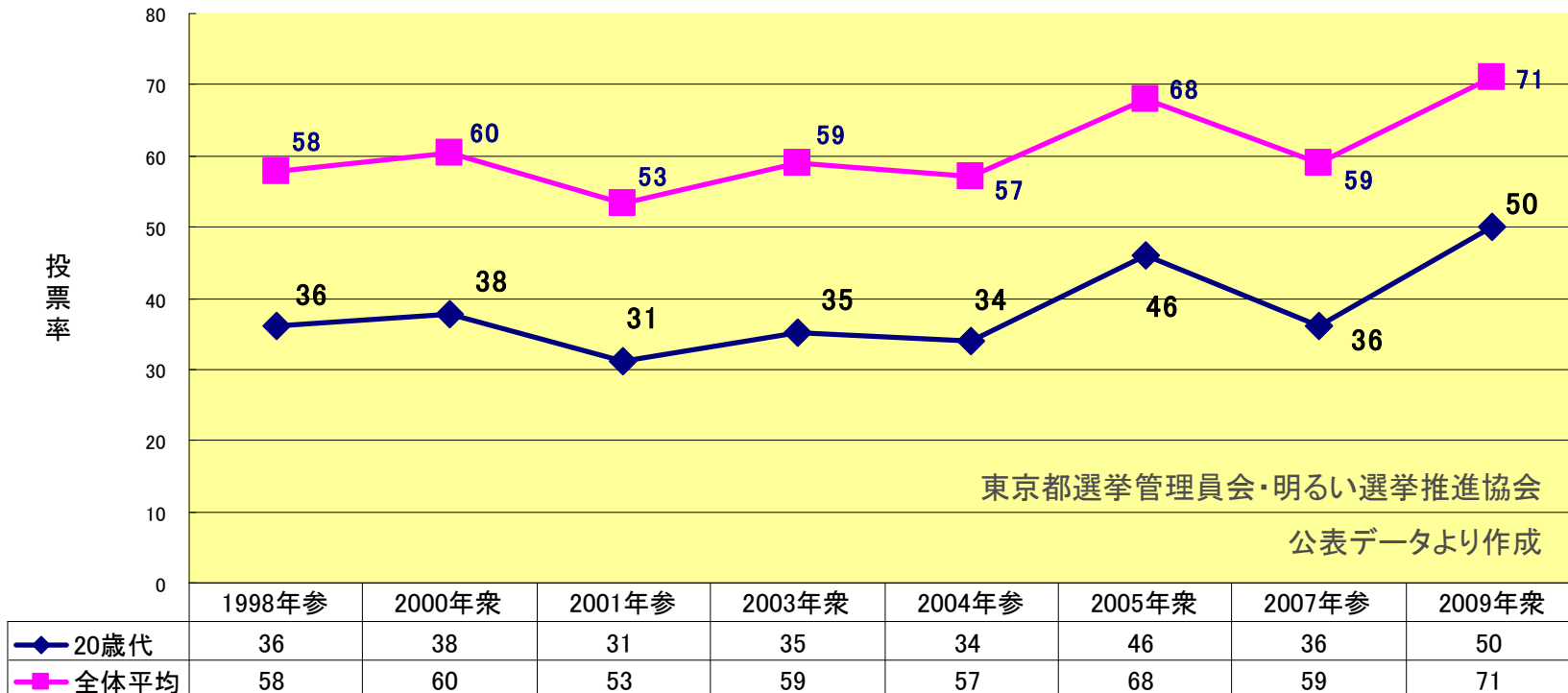


きわめて低い20代の投票率

民主主義の危機①

- ⑩ 「政権交代」で政治への関心が高まった中でも、
- ⑩ 20代の投票率は他世代と比べて非常に低くなっています

20歳代と全体平均投票率の比較



東京都選挙管理委員会・明るい選挙推進協会
公表データより作成

関心がないから若者は投票へ行かない？

民主主義の危機②

若者の政治への関心度は、それほど低くありません

- A: 日本の政治が「良い方向にすすむ」という20歳代の回答
39% (1998年) → **81%** (2001年) (読売新聞の世論調査、2001年6月)
- B: 『政治に対して非常に関心がある・まあ関心がある』
37.2 % (1998年) → **46.7 %** (内閣府「第7回世界青少年意識調査」 2004年1月)
- C: 青少年が社会問題や政治問題に参加することについて「参加すべき+参加したほうがいい」
日本 中学: 61.7% / 高校: 72.2%
アメリカ 中学: 59.4% / 高校: 76.9%
中国 中学: 78.0% / 高校: 83.5%
韓国 中学: 77.0% / 高校: 81.5%
(日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識」2009年2月公表)
- D: 高校までの学校の授業で政治や選挙を学んだ人と学んでない人の関心度の差

政治や選挙を学んだ記憶	政治への関心		
	非常に+ある程度ある	あまり+全然ない	わからない
ある	60.1%	36.8%	3.1%
ない	34.6%	58.0%	7.4%
全体	57.2%	39.2%	3.6%

(明るい選挙推進協会「若い有権者の意識調査(第3回)2010年1月公表」)

若者は、政治を身近に感じず不信感があるから投票に行かない

民主主義の危機③

学校・社会にも責任がありませんか？

政治に関心があるのに投票に行かない若者がいるのは、今の教育にも責任がありませんか？ 政治政治家を身近に感じられる仕組みが学校や社会の中にありますか？

身近に感じることがないと不祥事が起きるたびに政治や政治家に対して不信感が増え、政治や選挙への参加意欲が下がるのです。

[参考]

* 教育基本法 第14条（政治教育）（2006年12月15日成立、同月22日公布・施行 ※改正）

良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない。

2 法律に定める学校は、特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない。

* 中学校学習指導要領 第2節 社会（第1 目標）

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

[公民的分野] 1 目標（1）「(略)国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う」

 **参加意欲の低い、未来の有権者を育てる必要があります**

小中高生も政治に参加できる

模擬選挙の意義・目的①

小学生・中学生・高校生は未来の有権者です。大人と同様、日本の未来に関心を持っています。政治の大イベントである選挙にさせてみましょう。

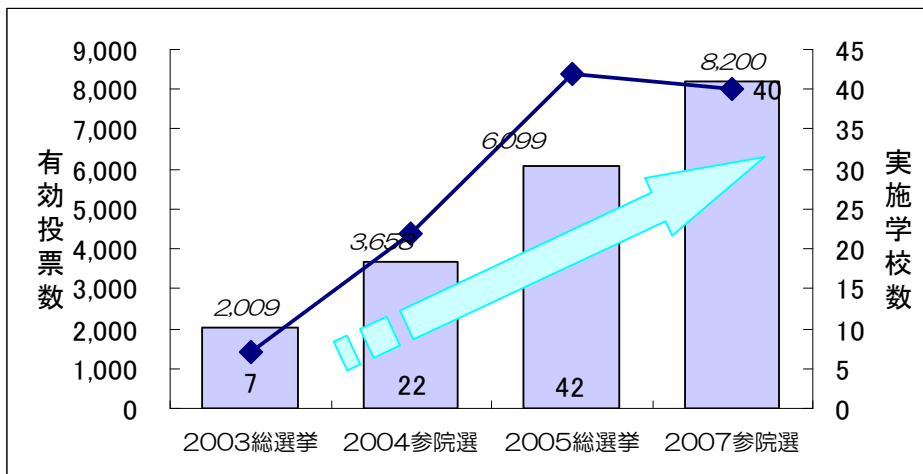
小中高生は嬉しくてドキドキしながら投票します。大人と同じ、一国民として真剣に投票するのです。

◆未成年「模擬」選挙とは？

未来の有権者の小中高生に、本物の選挙と同じように、投票してもらいます。参議院選挙であれば、立候補者や政党に投票します。本物と違うのは投票日と開票。各学校の投票結果を集めて全国集計して、未成年の意思としてマスコミに、実際の選挙の開票後に発表します。

◆参加急増の未成年「模擬」選挙

まだ歴史の浅いイベントですが、模擬選挙の参加校や投票数は急増です。



▲本物の投票箱に投票する高校生
@岩槻高校(04参院選)

模擬選挙は外国では広く普及しています

模擬選挙の意義・目的②

未成年「模擬」参議院議員選挙2010



※外国では「シティズンシップ教育」「民主主義教育」としてポピュラーです

・アメリカ: 2008年11月の大統領選挙において、全米で700万人規模で実施

<http://www.nationalmockelection.com/>

・コスタリカ: 20年以上も取り組まれている(実際の投票所の隣に模擬選挙の投票所がある)

その他、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデンなど、多くの国で模擬選挙は実施されています

政治を体感して興味を深め、選び方を学んで投票率も上がる

模擬選挙の意義・目的③

◆未成年「模擬」選挙3つのメリット

生徒が楽しむだけでなく、大きな波及効果があります。

1: 国民の一人と実感して、民主主義を体感する

政治に対する関心を高め、それまで知らなかった地域の課題、社会的な問題に気づき、考えるきっかけとなり、国民の一人・社会の一員としての責任と自覚を感じる

2: 賢い有権者を育てる

模擬選挙を通じて早くから投票に慣れ、立候補者や政党の選び方を実体験として学ぶ

3: 投票率UP

“政治”についての対話が家庭や地域で生まれ、実際の有権者(保護者、兄・姉など)に対する投票の働きかけにつながる



選挙公報を読みながら誰に投票しようか考える小学生(10町田市長選挙)▲

中立の立場を守るために

最大の注意点

(1)政治的中立と結果の選挙後公表

・特定の政党を支持、あるいは批判することを目的に模擬選挙を実施するのではなく、教育の一環として

実施することを確認し、学校や団体内で事前に徹底してください。

・「模擬選挙実施による意義・目的」を確認してください。

・各政党の政策などを教師が説明する際は、公正・中立な立場で行ってください

※政策に対して詳しくコメントする場合は、意味を説明するだけで評価的なコメントを避けてください。

また、模擬選挙実施後に説明を行う方が無難です。

※マスコミ報道などを活用して、客観的で公平な資料を作成することをこころがけてください。

例えば、模擬選挙の投票結果が野党寄りになったとしても、「マスコミが政権交代をあおっていたから」「与党批判の報道が目立ったから」などと説明できます。

・生徒がポスターを破ったりすると、実際の選挙では犯罪(公職選挙法違反)になると注意してください。

(2)公職選挙法の遵守(特に第138条の3「人気投票の公表の禁止」)

(人気投票の公表の禁止)

第138条の3 何人も、選挙に関し、公職に就くべき者(衆議院比例代表選出議員の選挙にあつては政党その他の政治団体に係る公職に就くべき者又はその数、参議院比例代表選出議員の選挙にあつては政党その他の政治団体に係る公職に就くべき者又はその数若しくは公職に就くべき順位)を予想する人気投票の経過又は結果を公表してはならない。

※模擬選挙の投票結果を、実際の選挙結果が公表されるまで公表しなければ、公職選挙法に抵触しません。(2006年6月の埼玉県議会で確認済み)

※模擬選挙の開票・集計を事前に教職員が行なうのは問題ありませんが、その結果は、実際の選挙結果が公表されるまでは外部に口外しないでください。

未成年“模擬”選挙は、多くの方が応援しています

応援団①

2010年6月9日現在／順不同・敬称略

青木 沙織	江戸川子どもおんぶず 事務局長
青木 将幸	ファシリテーター
秋元 祥治	NPO法人G-net 代表理事
明橋 大二	真生会富山病院心療内科部長、スクールカウンセラー
池田 佳代	NPO法人おおた市民活動推進機構 理事
池本 修悟	NPO法人NPO事業サポートセンター 専務理事
今村 久美	NPO法人NPOカタリバ 代表理事
岩附 由香	NPO法人ACE 代表理事
岩永 牧人	NPO法人ユースポート横濱 理事長
内田 豊	リンカーン・フォーラム 代表代行兼事務局長
奥地 圭子	東京シューレ 代表
甲斐田 万智子	認定NPO法人国際子ども権利センター 代表
加藤 秀樹	政策シンクタンク「構想日本」代表
喜多 明人	早稲田大学 教授
工藤 啓	NPO法人「育て上げ」ネット 理事長

※「応援団」の皆さまからのメッセージは、ウェブサイトで読むことができます

未成年“模擬”選挙は、多くの方が応援しています

応援団②

2010年6月9日現在／順不同・敬称略

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 小玉 重夫 | 東京大学 教授 |
| 近藤 孝弘 | 名古屋大学 教授 |
| 西郷 泰之 | 大正大学人間学部 教授 |
| 佐藤 大吾 | NPO法人ドットジェイピー 理事長 |
| 洪澤 健 | シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役 |
| 杉浦 真理 | 全国民主主義教育研究会 機関誌編集長 |
| 竹井 善昭 | 株式会社ソーシャルプランニング 代表取締役 |
| 田中 治彦 | 上智大学 教授 |
| 津田 知子 | 社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 事業部 日本マネージャー |
| 寺脇 研 | 映画評論家 元文部科学省審議官、元文化庁文化部長 |
| 遠山 正道 | 株式会社スマイルズ 代表取締役社長 |
| 中村 絵乃 | NPO法人開発教育協会 事務局長 |
| 馬場 政彰 | NPO法人「ど・あっぷ！」 代表理事 |
| 原田 謙介 | 学生団体ivote 代表 |
| 福嶋 浩彦 | 中央学院大学社会システム研究所 教授 |

※「応援団」の皆さまからのメッセージは、ウェブサイトで見ることができます

未成年“模擬”選挙は、多くの方が応援しています

応援団③

2010年6月9日現在／順不同・敬称略

藤原 孝章	同志社女子大学 教授
星野 智子	環境活動コーディネーター
牧之内 隆久	財団法人明るい選挙推進協会 常務理事
森田 明彦	尚絅学院大学 教授
八木 亜紀子	NPO法人開発教育協会、東京ボランティア・市民活動センター専門員
柳瀬 真佐子	NPO法人関西こども文化協会 代表理事
山野 良一	「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク 共同代表
湯浅 誠	反貧困ネットワーク事務局長、内閣府参与
横江 公美	PACIFIC 21 代表
渡辺 由美子	NPO法人キッズドア 代表理事

※「応援団」の皆さまからのメッセージは、ウェブサイトで見ることができます

模擬選挙推進ネットワークはサポートします

模擬選挙推進ネットワークとは①

1. 専用ウェブサイトで、模擬選挙を行う上での情報を提供

- ・模擬選挙実施に伴う実施上のノウハウ紹介や相談
→模擬選挙の実施経験のある先生の紹介ができます。
→全国の模擬選挙実施の先生と情報交換をできるメーリングリストがあります。
<http://groups.yahoo.co.jp/group/mogitouhyou/>
- ・10代による「政党本部探検ツアー」「公開質問状」などのお知らせ
→生徒から、政党・議員への質問なども受け付けます。
- ・ウェブ投票
→校内実施が難しい場合は、ウェブからの投票呼びかけをすることができます。
- ・全国の模擬選挙結果集計
→未来の有権者の意思を確認できます。

2. 模擬選挙実施に関するグッズ(各政党ポスター、マニフェストなど)の学校への配布

- ・各政党への協力要請をまとめて行ないます。
- ※選挙管理委員会から投票箱などを借用する手配は、学校側で行ってください。

3. 中高生とディスカッションを行うための大学生などの若者の派遣

4. 模擬選挙実施に関するマスコミへのプレスリリース対応

- ・各種メディアへのプレスリリースを行います。
- ・取材を受けるかどうかは、学校側で判断してください。
(模擬選挙推進ネットワークから、事前に、取材に応じる意思があるかどうかの確認を必ず行います)

模擬選挙推進ネットワーク・紹介

模擬選挙推進ネットワークとは②

《概要》

学校の先生を含め全国で未成年模擬選挙を実施している人間で構成しているネットワーク組織。模擬選挙の普及活動のほか、10代のための永田町体感ツアー・政党本部探検など、未成年者に政治に興味・関心を持ってもらえるプログラムを提供している。

※模擬選挙推進ネットワークは特定の政党・宗教団体の影響下のない「公平・中立・公正」な組織です

《事業》

①市民性を育む場造り事業

- ・未成年模擬選挙:有権者ではない、未来の有権者である20歳未満が、実際の選挙にあわせて実際の立候補者・政党に対して投票する。実際の選挙結果との比較や、投票理由などを議員に届ける。
- ・生の政治に触れる:学校の授業内での学習、各政党から提供されるマニフェストや新聞記事、10代による公開質問状、現役の政治家と意見交換を行う「永田町ツアー」などを通して、生の政治に触れ、社会のあり方について考え、議論する場を設ける。

②市民性教育のありかた調査研究事業

- ・国内外の市民性／民主主義教育の情報収集と研究会実施(2004年および2008年のアメリカ大統領選挙での模擬選挙の視察/アメリカでは約700万人が投票)
- ・主に中高生世代の社会意識や市民性のとらえかたを探る「10代の世論調査」の実施

《設立年月》

2006年12月設立

※NPO法人Rightsが2002年2月から取り組んできた「未成年“模擬”選挙」の運営を、より「中立・公正」かつ戦略的に推進していく組織として発展・独立

模擬選挙推進ネットワーク・紹介

模擬選挙推進ネットワークとは③

《活動の成果・実績》

- ・2002年2月の町田市長選挙以降、すべての国政選挙、首長選挙(知事選、市長選など)、議会選挙などで模擬選挙を実施し、3万人以上の未来の有権者が投票
- ・日本青年会議所「2005年度人間力大賞・衆議院議長奨励賞」受賞
- ・財団法人明るい選挙推進協会「平成19年度明るい選挙推進優良活動」表彰
- ・経済産業省「シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会」報告書での掲載
- ・教育再生懇談会(内閣府)でプレゼン(2009年3月) など

《未成年“模擬”選挙 実施体制》

呼びかけ 模擬選挙推進ネットワーク <http://www.mogisenkyo.com/> ←「模擬選挙」で検索!

賛同・協力(順不同/敬称略)

模擬選挙実施学校	政策シンクタンク「構想日本」	社団法人日本青年会議所
財団法人明るい選挙推進協会	各地の公開討論会実施団体	模擬選挙応援団
各地の模擬選挙実施団体・グループ	投票して下さる未来の有権者の皆さん	など

《連絡先》

模擬選挙推進ネットワーク

〒194-0032 東京都町田市本町田939-9

電話:090-6025-9614(代表・山崎) 090-1991-7458(事務局長・林) ファックス:042-720-8856

E-mail:jza04643@nifty.ne.jp(事務局長・林) Web <http://www.mogisenkyo.com>

※模擬選挙を運営するためには、学校へのmanifesto・ポスターの送料や、政党訪問や打合せ時の交通費・通信費、打合せ場所の賃借料、印刷物のデザイン費・作成費、ウェブサイトの維持費などが必要になります。運営に対する御寄附を頂戴できますと幸いです。

＜御寄附振込先＞三菱東京UFJ銀行 普通預金 高田馬場支店 2119738 模擬選挙推進ネットワーク 山崎武昭